

縄文展

知って楽しい考古学
知ってびっくり縄文時代



《縄文人の世界 春の採集》画像提供・新潟県立歴史博物館

「縄文展」開催にあたって

学校法人桐蔭学園 理事長 平岩 敬一

みなさんは縄文時代にどのようなイメージを持っていますか？「縄文」という名称は、アメリカの動物学者エドワード・モースが大森貝塚を発見し、そこで出土された縄目の文様をもつ土器を“cord marked pottery”と説明したことに由来します。

縄文時代は、人々が森と共生し、豊かな精神文化が発達した時代であったと考えられています。獲物を追って移動生活をしていた旧石器時代が終わり、土器が使われるようになった約17,000~16,000年前(※)から、稲作農耕が広まるまでのあいだ、縄文時代は13,000年以上も続いたと言われています。横浜地域では約15,000~14,000年前に縄文時代が始まりました。豊かな緑に囲まれた丘陵地帯の一角にある桐蔭学園の周辺にも、縄文時代の遺跡が確認されています。

今回の「縄文展」では、各所蔵機関のご協力のもと、発掘された出土品や、調査・研究に基づいて復元された資料を展示します。狩りや漁撈、調理のための道具など、当時の人々が工夫して作ったものの中には、現代にその面影を残しているものがあります。土器の文様やアクセサリーなどの装身具の種類から、縄文時代の人々は高い美意識をもっていたことがわかります。土偶をはじめとする不思議な造形物、これらは何のために作られたものなのでしょうか。

みなさんの目の前に並んだ何千年もの時を経た展示品から、縄文時代とはどんな時代だったのか、あらためて想像してみましょう。発掘調査や研究から、ここ数十年のあいだにも新たな発見がありました。もしかしたら、みなさんの中にふと湧いた考えや疑問が、まだ解明されていないものごとの糸口や、現在までに推測されていることへの裏付けにつながるかもしれません。桐蔭生のみなさんが「縄文」を通じて探求心、想像力を育みながら、知識が増えることの楽しさを感じてくれることを願います。

本展開催にあたって、所蔵機関はじめ、たくさんの方々にご多大なるご協力をいただきました。心より御礼申し上げます。

※年代には諸説あります。参考：信濃川火焔街道ホームページ「おもしろ考古学コラム No.26」<http://www.kaen-kaido.com/column/column26.html>



土偶。粘土で作られた素焼きの人形。形も文様も、一つひとつそれぞれがユニークで魅力的。何のために作られたかは、まだ解明されていません。いろいろな説があり、人々のさまざまな願いが込められているのでは、とされています。



《土偶》
三条市蔵



《貝刃》
神奈川県教育委員会蔵

貝の刃、と書いて「かいじん」。二枚貝のふちをそのごぎりの刃のように加工して、魚をさばいたり、うろこをとったりするときに使われたそうです。現代でいうナイフのようなもの。



《火焰型土器》
津南町教育委員会蔵

「芸術は爆発だ！」で有名な岡本太郎さんは、初めて縄文土器を見たとき、「なんだ、これは！」とびっくり仰天したのだとか。縄文時代の人、いったい何をイメージして作ったんだろう……。文様が複雑で作るのもむずかしそう！



《市谷加賀町二丁目遺跡出土縄文時代人骨(頭骨)》(左)、
《市谷加賀町二丁目遺跡出土縄文人復元顔像》(右)
新宿歴史博物館蔵



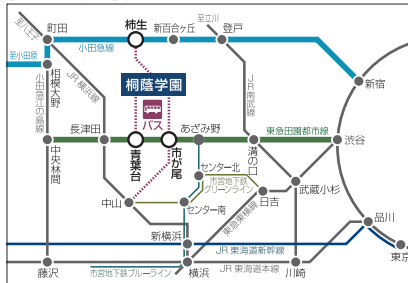
2012年2月、新宿区で縄文人の骨が大量に見つかりました。そのうちの一体の頭骨をもとに、縄文人の顔を復元したのがこちら。現代人と似てる？ 似てない？

《竪穴住居模型》
千葉市立加曾利貝塚博物館蔵
縄文人の住居。住み心地はよかったのかな？



《深鉢型土器》
東京都立埋蔵文化財調査センター蔵
口縁部にへびをかかどった土器。へびの生命力の強さにあやかって、文様や造形に取り入れたとの説もあります。

【交通のご案内】各駅からバスをご利用ください。



- 東急田園都市線 青葉台駅よりバス約15分
「桐蔭学園前」行、終点。または「市が尾駅」行、「桐蔭学園前」下車
- 東急田園都市線 市が尾駅よりバス約15分
「桐蔭学園前」行、終点。または「青葉台駅」行、「桐蔭学園前」下車。または「柿生駅北口」行、「桐蔭学園入口」下車
- 小田急線 柿生駅よりバス約15分
「桐蔭学園」行、終点。または「市が尾駅」行、「桐蔭学園入口」下車

【タクシーご利用の場合】
東急田園都市線 青葉台駅、または小田急線 柿生駅からが便利です。行き先は「桐蔭学園 鉄(くろがね) 神社前」とお伝えください。

※駐車場はございません。お車でのご来館はご遠慮ください。

《背人体系土偶》東京都立埋蔵文化財調査センター蔵